

2026年7月9日

## 台湾・6月輸出、先進国向けは拡大も、中国本土向けは下振れ(Asia Weekly)

～原油高一服でアジアのエネルギー価格は下振れするも、幅広くインフレ圧力が強まる流れ～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(Tel: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/6(月)	(タイ)6月消費者物価(前年比)	+2.42%	+2.79%	+2.79%
	(シンガポール)5月小売売上高(前年比)	+3.0%	--	+5.4%
7/7(火)	(フィリピン)6月消費者物価(前年比)	+6.4%	+6.6%	+6.8%
	(台湾)6月消費者物価(前年比)	+2.6%	+2.3%	+2.2%
7/8(水)	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	2.50%	2.50%	2.25%
7/9(木)	(中国)6月消費者物価(前年比)	+1.0%	+1.1%	+1.1%
	6月生産者物価(前年比)	+4.1%	+4.1%	+3.9%
	(マレーシア)5月鉱工業生産(前年比)	+8.4%	+9.5%	+8.2%
	金融政策委員会(政策金利)	2.75%	2.75%	2.75%
	(台湾)6月輸出(前年比)	+40.3%	+48.6%	+51.7%
	6月輸入(前年比)	+51.8%	+47.8%	+54.9%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

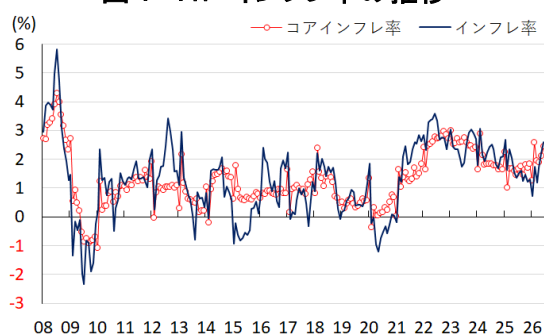
## [台湾]～幅広くインフレ圧力が強まるなか、先進国向け輸出は堅調だが、アジア新興国向けは下振れ～

7日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+2.6%となり、前月(同+2.2%)から加速して2025年1月以来の高い伸びとなった。前月比は+0.21%と前月(同+0.28%)から上昇ペースが鈍化しており、中東情勢の緊迫化を受けた原油高の1服を反映してエネルギー価格が下落した一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇が続くなど、生活必需品の物価はまちまちの動きをみせている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.45%となり、前月(同+2.12%)から加速して2024年2月以来の高い伸びとなった。前月比も+0.28%と前月(同+0.14%)から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇1服にもかかわらず輸送コストは上昇基調で推移しているほか、価格転嫁の動きを反映して幅広く財価格が上昇している。さらに、価格転嫁の動きが広がるなかでサービス物価も上昇ペースを強めており、幅広くインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

9日に発表された6月の輸出額は前年同月比+40.3%となり、前月(同+51.7%)から伸びが鈍化した。前月比も▲3.3%と、前月(同+11.9%)から2ヵ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動

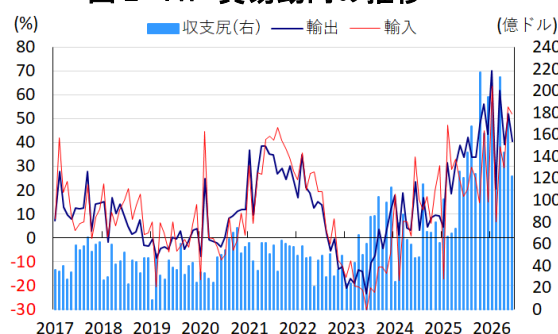
きとなっているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移しており、底堅い動きをみせている。財別では、金属関連や食料品関連などの輸出は拡大したものの、主力輸出財である半導体など電子部品関連で拡大の動きに一服感が出たほか、化学製品関連やプラスチック関連、金属製品関連など素材・部材の輸出が下振れしたことが全体の足を引っ張った。国・地域別では、日本向けや欧州向けで拡大が続いたほか、米国向けにも底堅い動きがみられたものの、中国本土向けやアジア新興国向けが軒並み下振れしたことが重しとなった。一方、輸入額は前年同月比+51.8%となり、前月（同+54.9%）から伸びが鈍化した。前月比は+5.4%と、前月（同+9.6%）から伸びが鈍化したものの、2ヵ月連続で拡大しており、単月ベースの輸入額は過去最高となった。財別では、原油高の動きに一服感が出ていることを反映して鉱物資源関連や化学製品関連の輸入額に下押し圧力がかかる一方、輸出の堅調さを反映して機械製品関連のほか、素材・部材関連の輸入は堅調な動きが続いている。その結果、貿易収支は+122.03億ドルと、前月（+179.06億ドル）から黒字幅が縮小した。

図1 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

図2 TW 貿易動向の推移

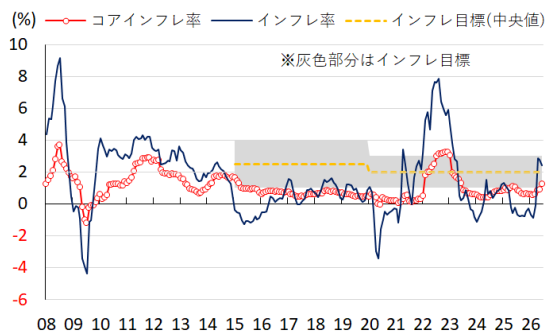


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

### [タイ]～原油高一服でインフレ率は鈍化も、価格転嫁の広がりも反映してコアインフレ率は加速～

6日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+2.42%となり、前月（同+2.79%）から伸びが鈍化したものの、3ヵ月連続で中銀が定める目標（2±1%）のレンジ内で推移している。前月比も▲0.34%と前月（同+0.17%）から4ヵ月ぶりの下落に転じた。中東情勢の緊迫化を受けた原油価格の上昇が一服したことを受けてエネルギー価格が下落しているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇ペースが鈍化しており、生活必需品を中心とするインフレ圧力が後退したことが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.23%となり、前月（同+0.92%）から加速して丸1年ぶりに目標レンジ内に収束するとともに、3年ぶりの高い伸びとなった。前月比も+0.27%と前月（同+0.27%）と同じペースで上昇している。エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力がかかる一方、金融市場におけるバツ安を受けた輸入インフレ圧力の高まりを反映し、幅広く財価格が上昇する動きがみられる。さらに、価格転嫁の動きを反映してサービス物価も幅広く上昇しており、インフレ圧力は広がりを見せている。

図3 TH インフレ率の推移

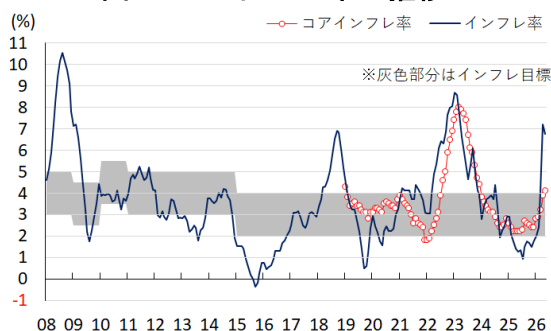


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

### [フィリピン]～原油高一服でインフレ率は鈍化も、価格転嫁やペソ安も重なりコアインフレ率は加速～

7日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+6.4%となり、前月（同+6.8%）から鈍化したものの、3ヵ月連続で中銀目標（2～4%）のレンジを上回る伸びで推移している。前月比は▲0.29%と前月（同▲0.51%）から2ヵ月連続で下落しており、生鮮品をはじめとする食料品価格が下落したほか、中東情勢の緊迫化を受けた原油高の一服を反映してエネルギー価格も下落するなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が後退したことが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.1%となり、前月（同+3.9%）から加速して2023年12月以来となる中銀目標の上限を上回る伸びとなった。前月比も+0.45%と前月（同+0.30%）から上昇ペースが加速している。エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力がかかる一方、価格転嫁の動きが広がりを見せていることに加え、金融市場におけるペソ安に伴う輸入インフレ圧力も重なり、幅広く財価格が上昇している。さらに、サービス物価も上昇基調を強めており、インフレ圧力が幅広く強まっている様子がうかがえる。

図4 PH インフレ率の推移



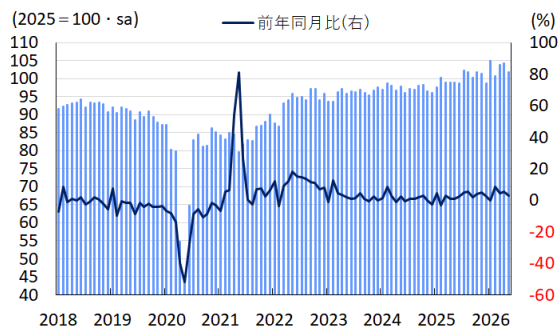
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

### [シンガポール]～個人消費は底入れの動きに一服感、需要の動きにもばらつきが生じている～

6日に発表された5月の小売売上高は前年同月比+3.0%となり、前月（同+5.4%）から伸びが鈍化した。前月比も▲2.28%と前月（同+0.41%）から3ヵ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きに一服感が出ている。同国では、月ごとの自動車販売が大きく上下に振れるとともに、小売全体の動向を左右する傾向がある。当月の自動車販売は前月比▲4.77%と前月（同▲0.50%）から2ヵ月連続で減少しており、頭打ちの動きを強めている。また、自動車を除いたベースでも前月比

▲1.84%と前月（同+0.57%）から3ヵ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きに一服感が出ている様子がうかがえる。種類別では、余暇消費に堅調な動きがみられる一方、食料品やエネルギーなど生活必需品のほか、日用品に対する需要にも軒並み下押し圧力がかかっている。さらに、高額消費にも下振れする動きが確認されるなど、需要の動きにはばらつきがみられる。

図5 SG 小売売上高の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以 上